

東京佛光山寺 臘八粥を届け現地化を实践する



東京佛光山寺は毎年、釈尊の成道日(12月8日)に臘八粥を近隣の方々に配り、釈尊成道の喜びを分かち合っています。12月5日、如恭法師が典座の呉敦子さんたち佛光人を指導して臘八粥を作り、覚耀法師と知賓師姐が臘八粥を近隣の方々に届けました。寒い冬に法師の届ける臘八粥を受取った日本人の方々は皆喜び、毎年この日の到来を期待しています。

お寺の裏に住んでいるご高齢の酒井泰子さんは、お寺が建替わってから入ったことがなく、どのようにしたらお寺に入れるかと聞きました。法師はいつでも歓迎いたしますと熱心に答えました。すると酒井さんは喜んですぐにお寺にいらして、一緒に昼食をなさいました。

今日、釈尊の功德の力をお借りして地域に溶け込み、近隣と親しくする力を発揮できました。仏教の現地化を実行し、人間仏教の喜びと温かさを熊野町の町会中に行き渡らせました。

